



法学部長
橋本 基弘
Motohiro Hashimoto

「広い視野を持とう」

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。本意であったかどうかはともかく、数多い大学の中から中央大学を選んでくれたことにまず感謝したい。

今、日本社会は激動の中にある。国家財政の破綻は対岸の火事ではあり得ない。経済のグローバル化は労働や日常生活のレベルにまで深い影を落としている。

教育もまた例外ではない。国境を越えた大競争が始まろうとしている。およそ「知」というものが人間にとって普遍的な意味をもつなら、大学の場所や使用言語は、本来二次的な要素しかもたないはずである。学びたい学問を学べる場所で学ぶというのが大学の起源であった。12世紀に大学制度の輪郭ができあがったのには、国境を越えた学びの要求があった。つまり国境を易々と越えて集まる学生の存在があった。

大学=universitaとは、本来人の集まりを意味するラテン語に由来する。ヨーロッパ各地から、聞きたい講義や知りたい知識、学びたい先生を求めて学生が集まってきた。

翻って本学を見てみよう。1885年に、日本を近代化するためにはイギリス法を広める必要があると考えた18人の若い法律家が集まった。そこに全国から法を学びたいと志を立てた多くの若者が参集する。出身地や使用言語(?)も異なる若者が中央大学の礎を築いたのである。

学問の自由は移動の自由によって支えられてきたのである。人の移動が自由であることが学問をする大前提である。グローバル化した社会ではローカルな知以上に普遍的な知が求められる。今この時、香港や上海でも、シンガポールやシドニーでも、ボストンやオックスフォードでも諸君と同じように瞳を輝かせて学ぶ若者がいることを忘れないでほしい。

広い視野を持とう。歴史を変えていくのは諸君なのだから。



経済学部長
関野 満夫
Mitsuo Sekino

経済学の世界へようこそ

経済学部新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

高校3年間の生活と受験勉強を経て、これから新たな大学生活4年間が始まります。親元を離れて一人暮らしを始める人もいるでしょう。いろいろな期待と不安を持って、この2013年4月を迎えていることと思います。

さて、みなさんの多くは経済や経済学に興味がありこの経済学部に入學したと思います。言うまでもなく経済は、就職・雇用問題、給与・賃金の水準、年金や消費税の問題など私達の身近な暮らしに直結する課題だけでなく、地球環境問題、原子力発電・エネルギー問題、テロ・紛争の原因にもなる貧困問題など世界的課題にもかかわっています。経済学はそうした経済問題の所在とその解決方向を考える学問(社会科学)なのです。みなさんのこれからの経済学部での4年間は、この経済学を自分のものにする4年間となるわけです。

中央大学経済学部では経済学および総合教養について体系的な授業カリキュラムを整えています。また、中央大学経済学部の教員はすべて、経済学ないし社会科学や外国語等の専門研究者であり、授業やゼミ活動を通じて学生のみなさんとの学問上の交流を楽しみにしています。言うまでもなく、大学での勉強は、自分なりの問題関心を持って主体的・積極的に取り組むことによって、さらに楽しくかつ有意義なものになります。

この緑豊かな多摩キャンパスにおいて、これからの4年間は是非有意義に過ごしてください。